

2005年度研究発表会及び電子系総会についての意見等の集約、
2006年度研究発表会に向けて、ジャーナル誌編集委員会報告

第3回幹事会（常任幹事会）

2006年5月20日（土）（於：東北職業能力開発大学校）

議事 実践教育研究大会の電子系での企画、出版事業、各分科会報告等

1. 実践教育研究大会運営委員会報告
2. 東北大会での電子系企画
3. 各分科会活動

○CAD/CAM・EMC分科会を統合して「実装技術研究分科会」を立ち上げる

主査：岡野(総合大)、事務局：滝本(北陸能開大)、支援企業：株式会社 図研

幹事：陣内(関東能開大)、奈須野(東北能開大)、太田(長野技術短大)

活動内容：プリント基板制作、EMC、ハンダ付実装(表面実装)地方で活動が行えるよう工夫する。

○「組み込みマイコン分科会」（仮称）

主に、分科会発足に向けた情報収集などをおこなった。今後、次年度発足を目標に活動をおこなっていききたい。

（1）組み込み技術を訓練で実践するための情報収集と公開

組み込み OS の導入は、開発環境の構築から始まる。既成の環境を導入することでの手間は大幅に省くことができる。また、安価な開発環境を入手するためには、LINUX、GNUなど情報系の知識が必要である。

本分科会では、標準的な開発環境構築の情報を収集・公開し、訓練への導入を円滑に行うことができる助けとなることを目標とする。

（2）組み込み技術に関する教材の作成

過去、多くのマイコン学習教材が開発されてきたが、組み込み技術の学習教材は数が少ない状況である。スイッチ、LEDといった初級の教材から、ネットワーク、制御といった多方面への広がりを持つ教材も対象となりうる。

また、ハードウェアを主とした教材だけではなく、ソフトウェア学習教材としても用いることができる。初級教材から、通信工学の教材、制御工学の教材、メカトロニクスの教材、プログラミング技術の教材 ネットワークの教材など、さまざまな応用が考えられる。本分科会では、標準的な学習教材、テキストなどの作成をおこない会員に対し公開していききたい。

(3) 情報系要素の強い分科会

現在、電気・電子・情報系では、電気・電子の要素の強い分科会はあるが、情報系が少ない。本分科会では、電子、情報の両分野の会員（指導員）が参加できる内容であり、活動の活性化が見込める。

(*) ETSS 等スキル評価制度と、高卒2年課程、アビリティ、能力開発セミナー等試験制度制定の動きもあるように聞いている。

少子化の中、高卒2年課程においても資格取得は重要なポイントとなると思われる。何らかの形で、試験制度の情報を収集し、関わっておくことが必要だと思う。また、ETSS を用いたスキル評価制度を導入している企業も多いようである。さらに民間の研修企業においても組み込み技術研修の要望は多いと聞いている。

4. 出版事業

佐々木先生を中心に「実践技術基礎問題集(技能検定)」を制作している。電子工学実験の出版事業が遅れているのは、実践技術基礎問題集を機械系との関連から早めたことによるのでこの出版事業も早期に検討する。

5. 次期事務局体制と電気系幹事改選

第4回幹事会（拡大幹事会）

2006年6月17日、18日（土）（於：アビリティガーデン）

議事 業務担当理事会報告と懸案事項審議、今年度の電子系活動の確認

実践発表会に向けて、分科会活動の活性化

1. 実践教育研究大会の電気系での企画等

内 容 地域産業への貢献に関するシンポジウム

－ ものづくりの地域貢献 － （機械系、電気・電子・情報系合同企画）

講 演 （株）マイスター 代表取締役 高井 作 氏（一級技能士）

・機械系、電子系から2名の代表者を出し、地域貢献についてディスカッションして貰う。電子系から、工藤先生（秋田短大）、滝本先生（北陸能開大）、機械系は上坂先生（東北能開大）と機械系中嶋先生（関東能開大）

2. 各分会活動

① 実装技術研究分科会

1. 第1回幹事会

日時 平成18年1月21日（土） 14:00から17:00

場所 生涯職業能力開発促進センター(アビリティガーデン)201B室

議題 1. 実装技術研究分科会の事業内容

- (1). 役員体制
- (2). 会員募集活動
- (3). その他

出席者 5名

2. 会員募集

電子系会員全員に、E-mailで会員募集案内を送付

3. (分科会発足記念) 実装技術セミナー開催

日時：平成18年6月17日(土) 13:00から16:00

会場：生涯職業能力開発促進センター(アビリティガーデン) 第一研修室

内容：

(1)テーマ1「実装工程における静電気障害とその対策」

講師 職業能力開発総合大学校 岡野 一雄(本分科会会長)

(2)テーマ2「高速ボードにおけるSI設計及び最新動向」

講師 株式会社 函研 江守純児 氏

出席者 15名

- ・現在の会員は、役員を含めて10名前後である。出版はジャーナルに独自のセッションを設けて岡野先生に連載を書いてもらう方向で検討。単独で発行するには、10点以上の記事が必要であり、難しい状況である。

② 組み込みマイコン分科会

- ・玉井先生が数名の先生とメールでやり取りしている。今年は、準備期間として次年度の大会で立ち上げる。機械系のメカトロニクス分科会と合同で考えても良いのではないか。

③ 情報系でもう1つ分科会を立ち上げてはとの意見があった。

- ④ その他に電子回路や高周波、アナログ回路の分科会はどうか。または、高周波やセンサー回路も含めて、実装技術研究分科会の中で含めて考えてもらえば良いのではないかと。

3. 東北大会に向けての今後の活動

- ・予稿に掲載する形での賛助会員の協力を提案。電子系として今回3件

4. 理事の改選と次期事務局体制、電気系幹事改選

- ・次期事務局体制としては、東京校はいつでも大丈夫であるが将来を考え、継続と他校も検討してはどうか。

- ・理事の改選時期である。今回電気系としては、現理事体制で今年は継続する方向であるが、この2年で新体制作りが必要である。
- ・幹事としての推薦条件としては、今後実践研の電気系をリード出来るような人材で、あることを明記したい。今回は幹事を改選するとともに、これまでに活動していただいた幹事は編集委員、連絡委員として今後も活動して貰いたい。

「基本的には幹事は2期4年を限度として、改選するのが理想と思います。」

第1回編集委員会

2005年9月29日（木）（於：長野工科短期大学校）

議事 編集体制の確認、原稿収集方法と内容について

1. 次期ジャーナル編集体制

- ①生方協力員に編集に全面的に協力いただく。
- ②佐藤編集委員に広告を担当いただく。

2. 次期ジャーナル分担

- ①巻頭言 佐々木担当 千秋先生に依頼済み
- ②実践報告 実践研での発表分 生方担当、 実践研発表以外の投稿 寺重担当
- ③ティータイム 中野担当
- ④進行予定

11月初旬くらいまでに執筆を依頼する。

1月初旬原稿締め切り。

1月中旬、データを確認後編集長に転送。

1月下旬、入稿

2月中旬、初稿

2月下旬 校正（編集員分担）

3月上旬 最終校入稿

3月中旬 完成

3. 活動報告としては、

- ①編集委員会の開催 1回
- ②ジャーナルの発行 1冊

進行はほぼ、上記のとおりであったが、発注先（ワークワン）が倒産、業務を引き継いだ中村印刷が落丁を引き起こす、というハプニングがあった。

議案Ⅲ 平成18年度 電気・電子・情報系専門部会事業計画 (案)

平成17年8月 1日

平成18年7月31日

(社)実践教育訓練研究協会の平成17年度事業計画を受けて、電気・電子・情報系専門部会では、次のように平成18年度の事業計画を提案します。

1. 実践ジャーナル 各系合冊で年間4巻の発刊

編集委員会の担当により、年間の計画を企画し発刊する、年間4巻の発刊の内、1巻を発表会予稿集とし、3巻を各3系で企画・発刊する。発刊にあたってはオフセット印刷への取り組みを行なう。

2. 実践教育訓練研究協会平成18年度発表会の開催

平成18年9月28日(木)～9月30日(土)

東北職業能力開発大学校

メインテーマ：「**地域に貢献するものづくりの技能・技術**」

発表件数： 79件 ポスターセッション： 9件 企業展示 22ブース

3. 電気・電子・情報系専門部会平成18年度総会の開催

平成18年9月28日(木)

東北職業能力開発大学校

事業報告、決算報告、事業計画、予算、次期役員体制に向けて

4. 電気・電子・情報系幹事会の開催

年間3回程度 開催予定 (電子メールでの開催も検討)

5. 編集委員会の開催

年間2回程度 開催予定 (電子メールでの開催も検討)

6. 電気・電子・情報系「実践活動事例討論会」

予算問題が解決するまで、しばらくの間、休止

7. 分科会活動への取り組み

(1) 「実装技術研究分科会」の新規活動計画

- 統合誌としてのサーキットクラブの継承（電気系ジャーナルへの組み込みを含めて）
- 学習会・見学会等の企画
- 実践発表会等での発表の企画
- 実装技術関連セミナー、教材作成に向けての取り組み

(2) 「組み込み系のマイコン開発」

- 昨年度メールにより意見交換を行った。今後は分科会幹事を選出、具体的に動き出したい

(3) 新たな分科会の発足に向けての検討

- 「情報系」の新規分科会の発足を目指す。

8. 出版活動への取り組み

- 実践技術者基礎問題集作成のため遅れていた、電気・電子技術科の学生のための電子工学実験書の出版に向けての取り組みを行いたい。
- 実践技術者基礎問題集の発刊を全施設に広め活用を推進したい。
- 実践教育研究協会編テキストの利用-----「各施設でのテキスト活用の推進」

9. インターネットの活用への取り組みについて

- 実践教育訓練研究協会HPの中の専門部HPの充実と活用を計り「電気・電子・情報」系の活動内容を会員に広める。
- E-mail を活用した会員間の情報交換に取り組む

電気・電子・情報系専門部会役員

部会長（理事）	工藤 光昭	（東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校）
副部会長（理事）	岡野 一雄	（職業能力開発総合大学校）
副部会長（理事）	千秋 広幸	（山形県立産業技術短期大学校）

常任幹事

編集委員長代理	中村 信也	（職業能力開発総合大学校東京校）
分科会担当	陣内 望	（関東職業能力開発大学校）
広報担当	古井 英則	（職業能力開発総合大学校東京校）
H P 担当	大久保欣哉	（職業能力開発総合大学校）
庶務担当	中谷 努	（職業能力開発総合大学校）
事務局長	奈須野 裕	（東北職業能力開発大学校）

幹事

中澤 直樹	（東北職業能力開発大学校）
滝本 貢悦	（北陸職業能力開発大学校）
佐々木英世	（東海職業能力開発大学校）
小林 克行	（長野県工科短期大学校）
玉井 瑞又	（近畿能開大附属京都職業能力開発短期大学校）
寺重 隆視	（広島国際大学）
後藤 雄治	（久留米工業高等専門学校）

事務局

事務局長	奈須野 裕	（東北職業能力開発大学校）
事務局次長	中澤 直樹	（東北職業能力開発大学校）
会計	小玉 博史	（東北職業能力開発大学校）

編集委員会

編集委員長	寺重 隆視	（広島国際大学）
副編集委員長	中村 信也	（職業能力開発総合大学校東京校）
副編集委員長	佐々木 進	（東北能開大附属青森職業能力開発短期大学校）
編集委員	佐藤 崇志	（職業能力開発総合大学校東京校）
	中野 亜求了	（千葉職業能力開発促進センター）
編集連絡員	生方 俊典	（東京都立航空工業高等専門学校）
	石本 直幸	（沖縄職業能力開発大学校）
	塩田 孝芳	（九州能開大附属川内職業能力開発短期大学校）
	千秋 広幸	（山形県立産業技術短期大学校）

新電気・電子・情報系専門部会役員と担当部署(案)

部会長 (理事)	工藤 光昭	(東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校)
副部会長 (理事)	岡野 一雄	(職業能力開発総合大学校)
副部会長 (理事)	千秋 広幸	(山形県立産業技術短期大学校)

常任幹事

編集委員長代理	生方 俊典	(東京都立航空工業高等専門学校)
分科会担当	永野 秀浩	(関東職業能力開発大学校)
広報担当	古井 英則	(職業能力開発総合大学校東京校)
庶務(出版)担当	大久保欣哉	(職業能力開発総合大学校)
HP担当	中谷 努	(職業能力開発総合大学校)
事務局長	奈須野 裕	(東北職業能力開発大学校)

幹事

中澤 直樹	(東北職業能力開発大学校)	庶務幹事
小坂 大吾	(北陸職業能力開発大学校)	出版幹事
佐々木英世	(東海職業能力開発大学校)	出版幹事
小林 克行	(長野県工科短期大学校)	広報幹事
玉井 瑞又	(京都職業能力開発短期大学校)	HP 幹事
平島 隆洋	(中国職業能力開発大学校)	編集幹事
楠原 良人	(九州職業能力開発大学校)	分科会幹事

事務局

事務局長	奈須野 裕	(東北職業能力開発大学校)
事務局次長	中澤 直樹	(東北職業能力開発大学校)
会計	小玉 博史	(東北職業能力開発大学校)

編集委員会

編集委員長	寺重 隆視	(広島国際大学)
副編集委員長	生方 俊典	(東京都立航空工業高等専門学校)
副編集委員長	佐藤 崇志	(職業能力開発総合大学校東京校)
編集委員	佐々木 進	(東北能開大附属青森職業能力開発短期大学校)
	中井 一弘	(近畿職業能力開発大学校)
	後藤 雄治	(久留米工業高等専門学校)
	滝本 貢悦	(北陸職業能力開発大学校)
	中村 信也	(職業能力開発総合大学校東京校)

編集連絡員

中野 亜求了 (沖縄職業能力開発大学校)

石本 直幸 (沖縄職業能力開発大学校)

塩田 孝芳 (九州能開大附属川内職業能力開発短期大学校)

盛舛 美春 (ポリテクセンター兵庫)

実践広報委員

実践ニュース編集担当 中谷 努 (職業能力開発総合大学校)

佐藤 崇志 (職業能力開発総合大学校東京校)

HP担当 玉井 瑞又 (京都職業能力開発短期大学校)

小玉 博史 (東北職業能力開発大学校)